「工事安全」祈願と高尾山御参拝

鈴木塗装工業㈱参拝団　鈴木良治

鈴木良治さん

第二次世界大戦後二十年が経った頃（昭和四十年頃）、我社（鈴木塗装工業㈱）の創立者である実父。鈴木英一郎に連れられ、私の高尾山への御参拝が始まりました。

父は戦前からの熱心な信者で、当時の友人達と数名にて、仕事の合間を見て、御参拝を続けておりました。

戦前からの事業も終戦を迎え、戦後の疲弊した経済も建設業も発展を始め、特に建設業界も活発な状況を呈して参り、同時に建設業の労災事故の発生が多くなりました。監督官庁の御指導により、工事安全対策が非常に細部に亘り徹底されてきました。

それまで安全対策はどちらかと言えば二の次で、さらに工期は短縮気味となっていたことで、労災事故が多発しておりました。我社（塗装工事業）も建設業界も、安全対策に試行錯誤を重ね、無事故・無災害工事の対策に必死に努めながら、現在に至っております。

参考までに、昭和三十六年度は年間労働災害による死亡事故の発生で、約二千六百人の尊い人命が失われました。特に建設関連では、転落・墜落・建設車両・建設機械・事故が多くを占めておりました。

大勢の人々の努力の結果、昨年には労働災害による死亡者数が千人を下回るようになりました。多くの事故が減ったとはいえ、未だに多くの重大災害が発生しております。

工事現場内で作業中の「ヒヤリ・ハット（事故には至らなかったもののヒヤリとした、ハッとした事例）」の経験率は、七十五パーセントに達していると言われております。アメリカの安全技師・ハインリッヒの法則によると、一件の重大な事故・災害に対して、二十九件の軽微な事故・災害があり、三百件の無事故（ヒヤリ・ハット）があると発表されております。

我社では、創立者が特に厳しく指導され、創業以来九十三年間の無事故・無災害の実績を重ねております。創業者・鈴木英一郎は高齢を迎え九十歳で他界いたしましたが、戦前から長年に亘り熱心な高尾山参拝を続けておりました。きっと厳しい安全指導だけではなく、安全に対し御本尊様に無限の御加護、御指導を願っていたことと思います。後を引き継いでいる私共も、高尾山への御参拝を長く続けさせていただく事を心に決めております。

図らずとも四年後、東京がオリンピック・パラリンピックの開催国となり、急ピッチで施設の工事や、国家的鉄道工事が進むことでしょう。

御本尊様の御加護を願い、大勢の人が参拝を行う

平成二十八年度、全国安全週間（七月一日～同七日）の実施要項『見えますか？　あなたのまわりの　見えない危険　みんなで見つける　安全管理』を全工事作業員・工事管理者の明確な方針とすべきと考えます。

今後とも、創立者に代り、私共後継者が御参拝を続けて、無事故・無災害工事に積極的に参加致す所存です。

七月二十二日～七月二十七日

第十箇度富士登拝修行記(1)

法務課　五頭　秀山

富士浅間社にて法楽を上げ出立する（筆者前列右端）

「なむせいりゅう　だいごんげーん！」

（南無青龍大権現）

鬼気迫る大きな声によって。滝場に緊張が走る。これから始まる富士登拝修行の前行としての滝行である。前日よりの雨の影響で滝の水量が多い中、修行者たちは自らの心身を清め、自動車祈祷殿広場の柴燈護摩道場にて皆様の諸願円満の為に【代参守】を御加持し、また道中の無事を祈る駆入柴燈護摩供を厳修した。

翌朝、山上の奥之院不動堂の裏手にお祀りされている、高尾山富士浅間社にて出立式を行い、菅谷執事長より激励の言葉を戴いて出発した。

一丁平を通り城山を歩く。上り坂では声を出し合い「慚愧懺悔・六根清浄」と唱えながら登る。修験に伝わる掛け念仏をお唱えすると、不思議に足が前に出る。山中においてはムササビに遭遇し、大自然に生きる珍客に見送られ、相模原市の善勝寺まで下ってゆく。

山道から離れ、舗装された、歩道の狭い道路を歩く。車道では、車やバイクが物凄い勢いで追い越していく。日常の生活から少し離れると、感じ方も変化する。普段、いかに便利で楽な生活しているのか。アスファルトの硬さを足の裏に感じながら、夏の暑さの中を進む。自分の身体と向き合い、時には心と向き合い、何が為かと問いかける。自分だけが辛く、苦しいわけでもない。共に歩く人がいるのは、とても頼もしいものである。普段、厳しい先輩も妙に優しい声だ。その励ましの言葉に一歩一歩、また一歩。

道中においては、御信徒様からお茶の御接待を戴くことができた。思いも寄らぬ一息に、渇いた喉と心を潤すのである。

〝ありがたい〟自然に手を合わせ頭が下がる。

今、大勢の人の御陰で修行が出来ることに感謝し、修行をして人に優しく接することが出来、また感謝戴ける。正に修行の本質ではなかろうか。

残念ながら今回は、富士吉田市の大国屋（御師）までの徒歩練行の参加であったが、高尾山薬王院にて一行の無魔成満を、一心に祈念する事をお約束申し上げ帰路につく。〝次こそは富士山頂まで共に祈りを凝らしたい〟来年の登拝修行への思いを馳せるのであった。

富士登拝代参守のご案内

この代参守は、高尾山から続く祈りの道を、修験者によって運ばれ、霊峰富士山頂にて法楽し、本年一年の、諸縁吉祥・諸願円満の為に、ご祈念致します。

（授与料）一体壱千円以上（代参守と碑伝合わせて）

〈申し込み方法〉

山上・御護摩受付所又は、葉書に郵便番号・住所・氏名（必ずフリガナを明記下さい。）電話番号を明記の上、左記までお申し込み下さい。

※締め切は、七月末日とし、八月以降の申し込みは、来年度分とさせて頂きます

〒一九三―八六八六
八王子市高尾町二一七七
大本山高尾山薬王院内
富士事務局

代参守

碑伝